

平成19年12月18日(火) 14:00~16:00
各務原市総合福祉会館3階 研修室にて

記録 各務原市介護保険相談センター
介護支援専門員 若尾 理恵

今回は、地域包括支援センターの主任ケアマネージャー部会のみなさんの全面協力で、笠松町地域包括支援センターの荒木篤さまを講師にお招きし、事例検討の研修会をおこないました。

<研修の内容>

- 講師： 笠松町地域包括支援センター 荒木 篤 先生
- 事例提供： 鵜沼中央クリニック介護保険相談センター 鈴木 英予さま
- 進行・協力：各務原市地域包括支援センター 主任ケアマネージャーの皆様

1. 事例を理解するための基本的枠組み（荒木先生から）

- ① 現状の客観的理解（年齢、性別、疾病、家族構成、経済状況などの基本項目や、本人と周囲との関係性）
- ② 生活歴の理解（時間の流れの中で本人を捉える）
- ③ 本人からの理解（本人のストーリーに入ること。「どんな世界に生き、何を感しながら生活しているのか」）

「輝かしい過去」「さみしい思い」などその人ごとのストーリーがあり、サービスの受け入れやクレームに影響していることも。本人の世界から理解を深めることが大切。

2. 事例の紹介（鈴木さんから）

「歩行困難、物忘れもあり、独居生活が難しくなってきたが、家族との折り合いが悪い利用者への支援」

3. 個人ワーク、グループワーク

①鈴木さんの援助の過程で良かった点・自分も取り入れてみたい点

- ・ 自分で抱え込まずに関係する多くの人を巻き込んでいた。特に主治医や民生委員との連携がとれていた。
- ・ 本人の意思を必ず尊重している。話し合いには必ず本人に参加してもらう。電話では伝わりにくいので対面で話すようにしていた点など。

②事例を理解する上でもう少し必要となる情報

- ・長男夫婦と折り合いが悪くなった原因は？
- ・娘さんらが介護に関らないのは何故か？
- ・体が弱り、自宅で過ごせなくなった時、本人はどうしたいと考えていたか。



本人から家族への思いがうかがえたのは、支援を何年か続けた中でぼろりと1回話されたときのみ。

③提示された課題について、どう考えるか。

- ・「みてもわらわなくてもいい」と言いながらさみしさや不安があるはず。本音の部分を聞き出したい。
- ・興味のある話題を共有し、根気に足を運んで信頼関係を築く。

各グループでは、ケアマネがそれぞれの経験や担当ケースを思い起こしながら、支援の難しさに共感したり、鈴木さんの努力や工夫に感心したりしながら、活発に意見交換がされました。鈴木さんからは、「今回まとめる過程で、ああすればよかった、と思ったり、努力が思い出されたり、ケースを振り返ることができた」「何度も足を運ばなくてはならないケースで嫌になることもあったが、みなさんの意見で、やってよかったと思えた」などの感想が聞かれました。「自分のステップアップのために事例発表を引き受けました。みなさんも次回是非！」とのことでした。